

コミュニケーション力を育むための 外国語活動の在り方を探る

仙台市立向山小学校

遠藤 恵利子
小野 洋平 阿部 尚子
大野 文子 藤原 聡一



■ 向山小学校の外国語活動

1) 実施学年と年間実施時間

低学年・・・年間 5時間

中学年・・・年間10時間

高学年・・・年間35時間

2) 授業者 外国語担当（少人数担当）

各担任

ALT（愛宕中学校）



3 ■ 外国語活動の授業作り 実践研究の概要

- ◆ 「コミュニケーション力」と「めざす児童像」
- ◆ 「授業作り5つの視点」
- ◆ 単元構成と単元の「終末モデル」の提示
- ◆ 「評価」の工夫



1 「コミュニケーション力」と「めざす子ども像」

4 ■ 「コミュニケーション力」をどうとらえるか

…その1

○小学校外国語活動のねらい



『コミュニケーションの素地を養う』



○外国語活動は、

- ・人と人をつなぐ「言葉の学習」
- ・「コミュニケーションについて学ぶ場」

■「コミュニケーション力」をどうとらえるか

…その2

5

①「言葉」を人と人をつなぐ道具として大切にしたい。

↓

②「相手のことをよく聞く」ことを大切にしたい。

↓

③「自分が言いたい, 伝えたい」ことを大切にしたい。

↓

④「必然性のある, 意味のあるやり取り」を大切にしたい。
(必要があって聞いたり伝えたりする状況をつくりたい。)

↓

⑤「自己表現」を通して自己肯定感を持ったり 他者への
関心を高めたりしたい。

■「コミュニケーション力」をどうとらえるか

…その3

6

・英語という道具を借り,

- 人と関わる力(人間関係形成力)
- 自分を表現する力(自己表現力)
- 相手の気持ちを考え, 思いを寄せる力(相手意識)
- 力を合わせて取り組む力(協力)

↓

を育むことができるのではないか

コミュニケーション力

↓

そのための授業の在り方

小学校教育の土台

↑↓

人として育つ

↔

■めざす児童像

7

- 人との出会いや友達とのかかわりを楽しみ,
(人と関わる楽しさ)
- ↓
- 相手の気持ちを思いやり,
(相手意識)
- ↓
- 伝わってうれしい, 伝え合うことが楽しい, と感じ,
(自己表現)
- ↓
- コミュニケーションを楽しむ児童



Good Communicationをめざそう!

8

児童版

- 相手に思いを寄せて, きこう, 考えよう!
 - 相手の声に耳を傾け, 最後まで聞く。
 - 相づち, うなずく, など反応する。
 - 相手の気持ちを考えたり想像したりする。
- 自分の言いたいことを最後まで伝えよう!
 - 分からないときには聞き返す。
 - 相手に, はっきりと, ていねいに, 話す。
 - 最後までしっかり伝える。
 - あきらめない, ごまかさない, にげない。
 - ×べつに...
 - ×どっちでも...
 - ×もういいや...



9

2 授業作り5つの視点

「コミュニケーション力」を育むためには・・・

- ①コミュニティ作りの視点
- ②オリジナリティの視点
- ③ペアやグループワークの視点
- ④自己表現力を高める視点
- ⑤既習事項を生かす視点

10

■授業作り5つの視点

①コミュニティ作りの視点

子ども同士の人間関係づくりが基本にある授業

コミュニケーション

信頼感

安心感

関わる楽しさ



11 ■ 授業作り5つの視点



② オリジナリティの視点

子どもにとって意味や必要感がある
教材や活動のある授業

子どもの興味・関心 創造性
オリジナリティを重視

教材・アクティビティ

自己表現意欲



12 ■ 授業作り5つの視点

③ ペアやグループワークの視点

友達と協力してやる楽しさ, 達成感のある授業

友達と協力して取り組む活動

達成感 信頼感 他者尊重感 モチベーション

■授業作り5つの視点

13

④自己表現力を高める視点

自分の思いを自分の言葉で表現できる授業

自己表現の場

伝えることが楽しい

自己肯定感や他者理解の深まり



■授業作り5つの視点

14

⑤既習事項を生かす視点

学習したことをスパイラルに生かしながら進める授業

学んだこと

次からの授業で生かす・他の場面で生かす



3 単元構成と単元の「終末モデル」の提示

15

①単元構成

- 一つのテーマを何時間,どのような計画で行うか
- どのような流れで活動を発展させていくか
- 前時の復習→表現に慣れる→実際に英語を使って何かをする

■第1ステップ:新しい目標表現に触れる活動

■第2ステップ:新しい目標表現に慣れる活動

■第3ステップ:目標となる表現を使った簡単なコミュニケーション活動

■第4ステップ:自分たちのアイデアを表現する活動
友達と協力して課題を達成する活動

■単元構成と単元の「終末モデル」の提示

16

②単元の「終末モデル」の提示

■第1ステップ:新しい目標表現に触れる活動

- デモンストレーション
- 目標となる表現
どんな意味でどんな場面で使われるか
- 単元の終末の目標表現と使用場面の設定

子どもー 学習のめあて
活動の着地点
活動意欲



5 各学年の活動の様子

17 第3学年の活動

単元名「Colors and Shapes - 色と形で遊ぼう」 5時間扱い
 指導目標：色や形の英語表現を使ってほしいものを伝えようとする。

活動目標：友達と協力して「はり絵」を作る。



第4学年の活動

18

単元名「MUKAIYAMA ZOO - 向山動物園」 5時間扱い
 指導目標：動物の英語表現を使って、好きな動物を尋ね合おうとする。

活動目標：友達と協力して動物園探険をする。



第5学年の活動

単元名「My Favorite(2)- ○○さんのための衣服コレクション」

19

4時間扱い

終末モデル：ほしい衣服を伝えて、思い描いた先生のための衣服を集める。

指導目標：英語を使って、ほしい衣服を伝えようとする。
尋ねられたことに答えようとする。

活動目標：相手のことを考えて(相手意識)衣服コレクションを完成させる。



第6学年の活動

単元名「My Strong Point- できる?できない?」4時間扱い

20

終末モデル：できることを尋ね合いながら、自分や友達の将来の可能性を伝え合う。

指導目標：英語を使って、自分や友達のできることを尋ねたり、答えたりしようとする。

活動目標：すごろくをしながら、全部のSuper Powerにたどり着く。



4 評価の工夫

21

- ① 单元ごとの「評価規準」と「具体的な子どもの姿」
- ② 毎時間の評価 と 单元ごとの評価
- ③ 教師のコメント と 振り返りの共有化



■ 評価の工夫

22

- ① 单元ごとの「評価規準」と「具体的な子どもの姿」

目標と評価の観点

評価規準

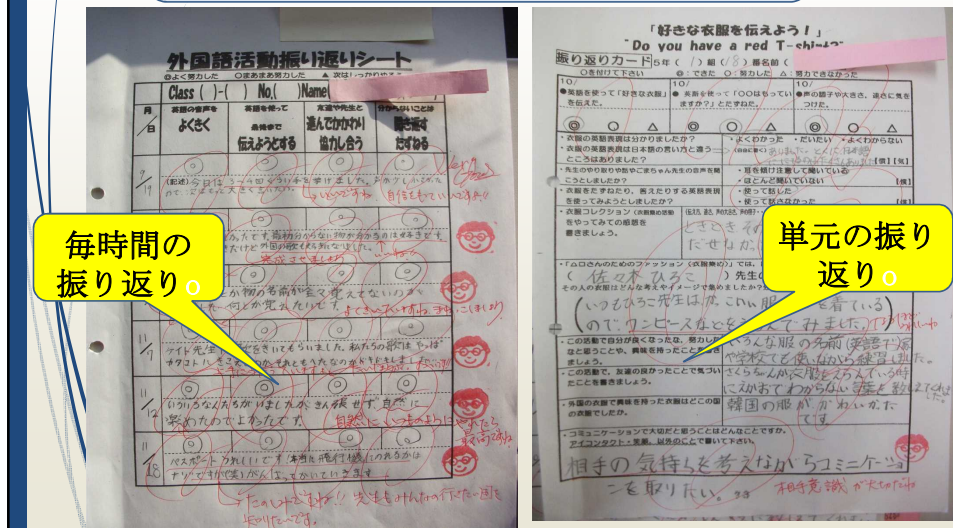
【目標・評価の観点】	【評価規準】	【具体的な子どもの姿】
<p>【目標・評価の観点】 ① 意図・目的・態度 ② 知識・技能 ③ 思考・判断・問題解決 ④ 表現・交流</p>	<p>【評価規準】 ① 意図・目的・態度 ② 知識・技能 ③ 思考・判断・問題解決 ④ 表現・交流</p>	<p>【具体的な子どもの姿】 ① 意図・目的・態度 ② 知識・技能 ③ 思考・判断・問題解決 ④ 表現・交流</p>

・具体的な子どもの姿
 ・教師が評価すべき具体的な子どもの姿

■ 評価の工夫

23

② 毎時間の評価 と 単元ごとの評価



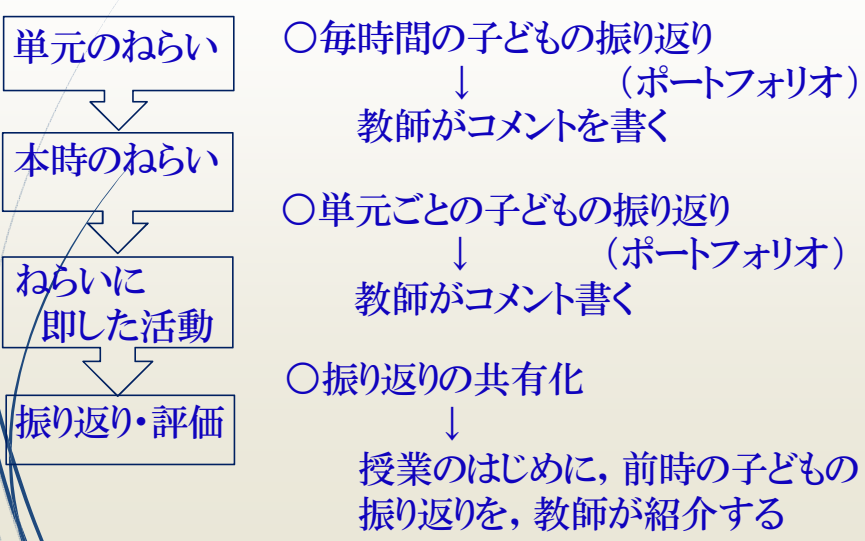
毎時間の振り返り

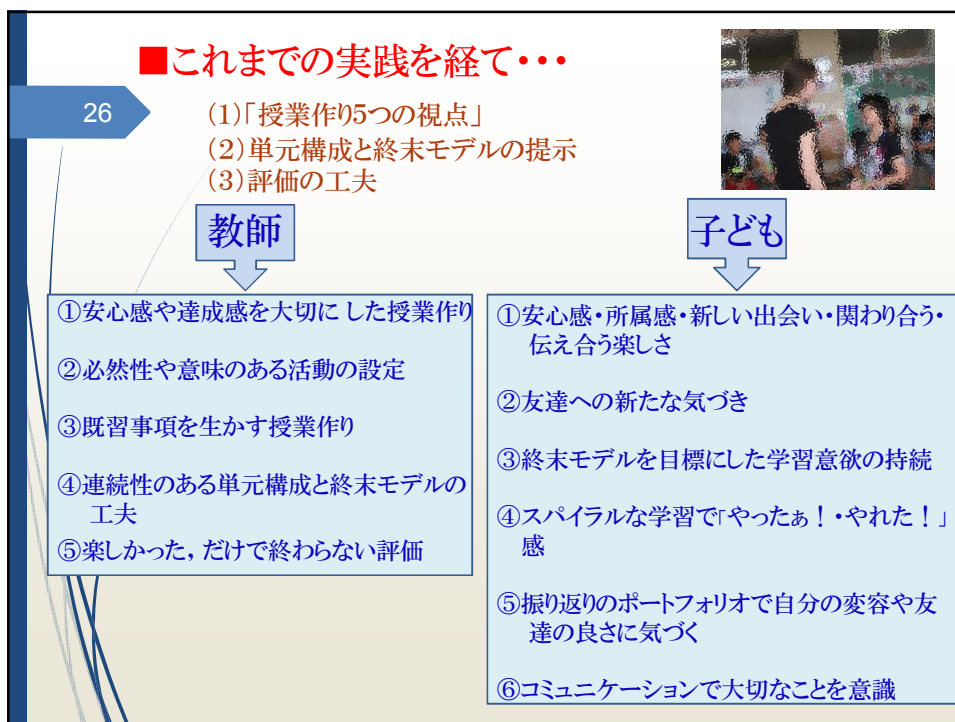
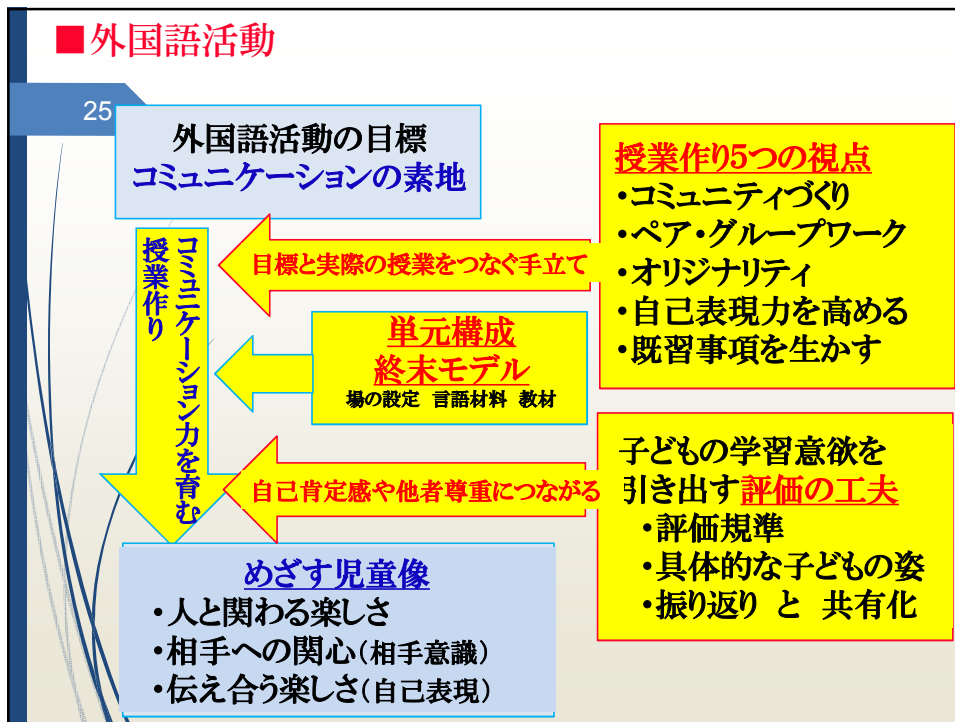
単元の振り返り

■ 評価の工夫

24

③ 教師のコメント と 振り返りの共有化





■これまでの実践を経て・・・

27

(4)「コミュニケーション力」と「めざす児童像」

①外国語活動へのプラス評価(「はい」・「どちらかというとはい」)

3年100% 4年100% 5年98% 6年96%

(H26・10月・11月アンケート調査結果)

②振り返りシートやアンケートの記述から見る子どもの意識

- 「出会い・関わり合い・伝え合い」の楽しさ
- 友達といっしょに何かを行うことが楽しい
- 「言葉」を使って、「やったあ・できた・わかった」を実感
- 友達への新たな気づき
- 5・6年交流外国語活動での体験
- English Dayの体験



人と関わる楽しさやコミュニケーションへの意識の高まり

■最後に・・・

28

■「English Day」の振り返り感想より

「・・・わからない英語があっても動きや表情でわかった。授業でやったことを使えたのでとても充実していた。ゲストの方がうなずいてくれたり、私が話すのを待っていてくれたりした。私の言いたいことが伝わったのでうれしかった。

またこんな機会があったらもっと話したい・・・。」



ご清聴ありがとうございました

参考文献

「小学校外国語活動の進め方一言葉の教育として」 岡秀夫・金森強編著
(成美堂)

「子供中心ではじめる英語レッスン」 デイビット・ポール著
(ピアソン・エデュケーション)

「小学校の英語教育―指導者に求められる理論と実践」 金森強著
(教育出版)

「平成26年度版 向山小学校外国語活動全体計画」